

KONANKU

江南区 区ビジョンまちづくり計画

令和5年度～令和12年度

新潟市江南区役所



目次

はじめに	1
計画の構成	2
江南区区ビジョン基本方針（抜粋）	5
各区のすがた	7
第1章 江南区の概要	9
1. 地勢	
2. 歴史	
3. 自然	
4. 人口	
5. 土地利用状況	
6. 産業	
7. 交通	
第2章 江南区区ビジョンまちづくり計画の体系図	17
第3章 江南区の現状、特性と課題/まちづくりの取組	19
I 自然環境と都市機能を活かした快適に暮らせるまち	
II 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち	
III 産業と地域の魅力が輝くまち	
IV 人が輝き文化が育まれ健やかに過ごせるまち	
V 区民が主役となる協働のまち	
巻末資料	39

はじめに

1 策定趣旨

本計画は、区民と区の将来像を共有し、地域の特性を活かした個性あふれるまちづくりを進めるため、策定するものです。

区の将来像の実現を目指し、区民と協働しながら、本計画に基づき取組を推進していきます。

江南区区ビジョンまちづくり計画は、新潟市総合計画 2030 の一部である区ビジョン基本方針の実現に向けた取組と、実施計画に相当する具体的な取組を示した江南区のまちづくり計画です。

2 計画期間

計画期間は、令和5年度から令和12年度までの8年間とします。

ただし、実施計画は、取組の実施状況や社会・経済状況の変化などに対応するため、2年ごとに策定し進捗管理を行います。

計画の構成

1 新潟市総合計画とは

新潟市が目指すまちづくりのあり方を示すもので、「基本構想」「基本計画」「実施計画」で構成されています。区ビジョンまちづくり計画の上位計画です。

「基本構想」「基本計画」は、令和5年度から8年後の令和12年までを計画期間とし、新潟市の目指すまちづくりの方針と、その実現に向けた政策と施策について記載しています。

また、施策の実現に向けた具体的な取組を掲載する「実施計画」は、計画期間の中間である令和8年度に必要な見直しを行う予定です。

2 区ビジョン基本方針とは

江南区の将来像や目指す方向性などを示すものです。新潟市総合計画2030の「基本計画」の一部として策定されます。江南区自治協議会で検討・審議し、新潟市議会の議決を経て策定しました。

3 区ビジョンまちづくり計画とは

「基本計画」と「実施計画」で構成され、うち「基本計画」は、区ビジョン基本方針を踏まえ、より具体的な取組の方向性を示すものです。

計画期間は、令和5年度から令和12年度までの8年間となります。構成は、「第1章 江南区の概要」「第2章 江南区区ビジョンまちづくり計画の体系図」「第3章 江南区の現状、特性と課題／まちづくりの取組」となっています。

「実施計画(別冊)」は、2年ごとに策定し、進捗管理を行っていきます。

新潟市総合計画2030

基本構想

まちづくりの理念と
目指す都市像

基本計画

基本的な政策や施策
土地利用の基本的方針

区ビジョン基本方針

実施計画

基本計画で示した
施策を実現するための
具体的な取組

区ビジョンまちづくり計画

基本計画

第1章 江南区の概要

1 地勢 2 歴史 3 自然 4 人口
5 土地利用状況 6 産業 7 交通

第2章 江南区区ビジョンまちづくり 計画の体系図

第3章 江南区の現状、特性と課題/ まちづくりの取組

実施計画

上記で示した施策を実現する
ための具体的な取組(別冊)

全国的な課題である人口減少に対しては、人口減少を和らげる取組と人口減少社会に適応する取組をどちらも実施する必要があります。

区ビジョンまちづくり計画では、主に適応する取組がメインとなりますが、人口減少を和らげる取組は、上位計画である新潟市総合計画2030に基づき、市民・民間事業者・各種団体など多様な主体と連携・協働しながら取り組んでいきます。

4 SDGs(持続可能な開発目標)とは

平成27(2015)年9月開催の「国連持続可能な開発サミット」で採択された、よりよい未来を目指すための令和12(2030)年までの世界共通の目標「Sustainable Development Goals」の略称です。

新潟市総合計画2030の基本構想に掲げた「持続可能なまちづくり」という方向性は、まさにSDGsにおける持続可能な開発(将来世代のニーズに応える能力を損ねることなく、現代の世代のニーズを満たす開発)の考え方と一致しています。

新潟市総合計画2030においても「経済」「社会」「環境」の3側面の調和など、SDGsの基本的な考え方を意識して、それぞれの政策・施策を推進することとしています。

全ての政策分野及び行財政運営において、市民・民間事業者・国・県・周辺市町村など多様な主体とのパートナーシップを活かした施策推進を重視していきます。



江南区区ビジョン基本方針（抜粋）

区の将来像

緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち

I 自然環境と都市機能を活かした快適に暮らせるまち

- 緑豊かに広がる田園風景と信濃川、阿賀野川、小阿賀野川を結ぶ水と緑のネットワークづくりやその活用を図ります。また、自然と共生した環境にやさしいまちを未来の世代につなぐため、資源循環型社会の実現を目指します。
- 道路や公園などの社会資本を的確に整備・維持管理し、さらに有効活用するとともに、公共交通など人と物が移動しやすい環境形成を進めます。また、地域の課題解決や活性化につながる土地利用を促進し、持続的に発展するまちづくりを進めます。

II 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち

- 様々な自然災害に備え、自治会・町内会、自主防災組織などと連携し、区民一人一人が適切な行動がとれる災害に強いまちを目指すほか、区民、警察、関係団体などと連携し、交通安全・防犯意識の向上を図るなど、安心安全な地域づくりを進めます。
- 人と人、活動と活動をつなぐネットワークづくりや気軽に立ち寄れる交流の場づくりなど、みんなでささえあい、だれもが住み慣れた地域で健やかに安心して暮らせるまちを目指します。

III 産業と地域の魅力が輝くまち

- 魅力ある農産物をはじめ、伝統産業の亀田縞、新たな工業団地など、農商工それぞれの特性を活かした、持続可能な産業の形成を目指します。
- 区内商業地の拠点である亀田地区の賑わいづくりを進めるとともに、各地区が連携し、区全体の地域商業の活性化を目指します。
- さらなる企業誘致や農商工・農福連携による新たなビジネスの創出、若者のUターン就職に向けて取り組むなど、雇用機会の拡大を目指します。

Ⅳ 人が輝き文化が育まれ健やかに過ごせるまち

- 将来を担う子どもたちの健やかな成長に向けて、学校と家庭、多世代にわたる地域住民との連携により、教育力の向上を図ります。
- 江南区が有する素晴らしい歴史や伝統を後世へ継承し、文化芸術などに触れる機会を提供するとともに、スポーツに親しむ環境づくりを進めるなど、地元に誇りや愛着を持ち、多様な個性が発揮できる生涯にわたり人が輝くまちを目指します。

Ⅴ 区民が主役となる協働のまち

- 地域課題解決に向け、区自治協議会、地域コミュニティ協議会、自治会・町内会をはじめ多様な主体とともに互いの強みを活かし、相互連携を深めることで、区民が主役となる協働のまちづくりを進めます。
- 区民の視点に立って迅速・丁寧に対応するとともに、情報発信を強化し、親しみやすい区役所づくりを進めます。

各区のすがた

項 目		新潟市全体	北 区	東 区	中央区	
人 口	総 数	令和2年人口(人)	789,275	72,804	134,446	180,345
		令和27年推計人口(人)	631,510	55,285	100,674	160,995
	15歳未満	令和2年人口(人) 割合(%)	91,224 (11.6)	8,195 (11.3)	15,867 (11.8)	19,599 (10.9)
		令和27年推計人口(人) 割合(%)	60,835 (9.6)	5,692 (10.3)	9,988 (9.9)	16,084 (10.0)
	15~64歳	令和2年人口(人) 割合(%)	463,605 (58.7)	41,301 (56.7)	79,308 (59.0)	112,981 (62.6)
		令和27年推計人口(人) 割合(%)	317,625 (50.3)	28,700 (51.9)	52,253 (51.9)	87,623 (54.4)
	65歳以上	令和2年人口(人) 割合(%)	234,446 (29.7)	23,308 (32.0)	39,271 (29.2)	47,765 (26.5)
		令和27年推計人口(人) 割合(%)	253,050 (40.1)	20,893 (37.8)	38,433 (38.2)	57,288 (35.6)
		単身高齢者数(人)	35,041	2,644	6,643	10,409
		65歳以上に占める 単身高齢者数の割合(%)	14.9	11.3	16.9	21.8
	人口動態	年間増減(人)	-5,024	-779	-1,129	-552
		うち自然動態(人)	-4,310	-509	-632	-737
		うち社会動態(人)	-714	-270	-497	185
	世 帯	世帯数(世帯)	331,272	27,418	57,491	90,860
		1世帯あたりの人員(人)	2.4	2.7	2.3	2.0
核家族の割合(%)		53.6	56.6	56.3	45.2	
単独世帯の割合(%)		35.1	27.5	33.8	48.6	
3世代世帯の割合(%)		7.1	10.5	5.9	3.0	
面 積	面積(km ²)	726.28	107.61	38.63	37.75	

農 業	農業戸数(戸)	9,675	1,414	282	174
	基幹的農業従事者数(人)	10,379	1,465	303	197
	うち65歳以上の割合(%)	67.8	68.6	62.7	59.4
	経営耕地面積(ha)	28,463	3,991	713	384
工 業	事業所数(所)	949	156	176	100
	従業者数(人)	37,478	6,945	8,725	1,656
	製造品出荷額等(億円)	11,469	3,405	2,962	244
商 業	事業所数(所)	7,985	542	1,138	2,831
	従業者数(人)	68,805	4,292	11,339	23,382
	年間商品販売額(億円)	32,319	1,408	5,265	13,394

(出典)

人口：国勢調査(R2)不詳補完値。推計値(新潟市全体)は国勢調査(R2)および人口動態統計特殊報告(H25~H29)から算出した新潟市独自推計値。推計値(各区)は新潟市全体の推計人口を、新潟市独自推計である「各区将来推計人口(H30)」の男女別5歳階級別の構成比から算出したもの

人口動態：新潟県人口移動調査(R3)

江南区	秋葉区	南区	西区	西蒲区	項目	
67,972	75,069	43,437	160,656	54,546	令和2年人口(人)	総数
51,875	55,965	30,282	140,380	36,054	令和27年推計人口(人)	
8,722 (12.8)	9,080 (12.1)	4,926 (11.3)	19,178 (11.9)	5,657 (10.4)	令和2年人口(人) 割合(%)	15歳未満
4,521 (8.7)	5,548 (9.9)	2,594 (8.6)	15,115 (10.8)	2,898 (8.0)	令和27年推計人口(人) 割合(%)	
38,653 (56.9)	41,904 (55.8)	24,761 (57.0)	94,898 (59.1)	29,799 (54.6)	令和2年人口(人) 割合(%)	15歳 ～ 64歳
25,469 (49.1)	28,772 (51.4)	13,879 (45.8)	77,888 (55.5)	16,035 (44.5)	令和27年推計人口(人) 割合(%)	
20,597 (30.3)	24,085 (32.1)	13,750 (31.7)	46,580 (29.0)	19,090 (35.0)	令和2年人口(人) 割合(%)	65歳以上
21,885 (42.2)	21,645 (38.7)	13,809 (45.6)	47,377 (33.7)	17,121 (47.5)	令和27年推計人口(人) 割合(%)	
2,431	2,987	1,255	6,735	1,937	単身高齢者数(人)	人口動態
11.8	12.4	9.1	14.5	10.1	65歳以上に占める 単身高齢者数の割合(%)	
-131	-547	-562	-604	-720	年間増減(人)	人口動態
-319	-500	-373	-722	-518	うち自然動態(人)	
188	-47	-189	118	-202	うち社会動態(人)	
24,891	28,003	14,922	69,006	18,681	世帯数(世帯)	世帯
2.7	2.7	2.9	2.3	2.9	1世帯あたりの人員(人)	
61.9	60.1	56.9	53.8	56.5	核家族の割合(%)	
23.5	24.1	21.4	36.7	20.7	単独世帯の割合(%)	
9.6	10.2	14.9	5.6	16.0	3世代世帯の割合(%)	
75.42	95.38	100.91	94.00	176.57	面積(km ²)	面積

1,319	1,192	1,828	1,170	2,296	農業戸数(戸)	農 業
1,403	1,129	2,261	1,504	2,117	基幹的農業従事者数(人)	
70.2	70.9	64.4	61.0	74.1	うち65歳以上の割合(%)	
3,087	3,336	5,596	3,650	7,709	経営耕地面積(ha)	工 業
111	76	124	68	138	事業所数(所)	
6,058	2,400	5,803	1,487	4,404	従業者数(人)	
1,405	567	1,692	339	854	製造品出荷額等(億円)	商 業
743	604	442	1,154	531	事業所数(所)	
6,576	4,606	2,925	12,519	3,166	従業者数(人)	
2,860	1,068	818	6,826	680	年間商品販売額(億円)	

世帯:国勢調査(R2)

面積:全国都道府県市区町村調(R4.1)

農・工・商業:2020農林業センサス、工業統計調査(R2)、経済センサス(H28)

(※1)推計値(新潟市全体)と推計値(各区)は、基準としているデータが異なるため、区別、年齢別の区別人口の合計値は新潟市全体の年齢別人口と一致しない

1 地勢

江南区は、東を阿賀野川、西を信濃川、南を小阿賀野川、北を日本海東北自動車道と接し、西蒲区以外の全ての区と阿賀野市に接しています。面積は、75.42 平方キロメートルで、本市のほぼ中心に位置し、亀田、横越、曾野木、大江山、両川の5つの地区で構成されています。

土地は平坦で海拔0メートル地帯が多く、かつては「地図にない湖」と呼ばれていましたが、河川改修や土地改良事業により、広大な優良農地へと生まれ変わりました。



2 歴史

江南区は、昭和32(1957)年に新潟市に合併した、曾野木・大江山・両川地区と平成17(2005)年に新潟市に合併した亀田・横越地区の5地区で構成されています。

江南区の各地区では貴重な遺跡が発見され、古くから人々が生活していたことがうかがえます。大江山地区では、縄文時代の遺跡が発見されたことにちなみ、大江山公園が整備され、歴史や自然に触れることができます。また、江南区には重要文化財となっている雪村友梅^{せつそんゆうばい}墨跡梅花詩^{ぼくせきばいかし}(北方文化博物館所蔵)のほか数多くの文化財があります。

(1) 亀田地区の歴史

亀田地区の遺跡が集中する亀田砂丘では、縄文時代前期初頭(約6,000年前)から人々が住み着いた痕跡が残されています。近年かつて低湿地であったところからも西郷遺跡(弥生時代)や駒首潟遺跡(平安時代)など遺跡の発見が相次いでいます。中世以降にも脈々と人々の生活は受け継がれ、17世紀初頭には亀田地区の本格的な開発が進みました。その中で、元禄6(1693)年に中谷内新田が「亀田町」と改称され、翌年には六斎市が開設されて発展の基礎が築かれました。栗ノ木川は、水上交通路として重要な役割を果たしていました。

明治30(1897)年の鉄道開通により、亀田地区は地域の経済的拠点に成長します。明治22(1889)年の町制施行後、明治34(1901)年に袋津村ほかと、また大正14(1925)年には早通村と合併し地域も広がりました。

亀田地区の伝統的特産物といえば亀田^{じま}縞です。農家の作業着などに使われる藍染織物で、江戸期から昭和初期まで盛んに生産されました。近年その伝統が見直され、再び製造されています。

平成17(2005)年の新潟市への合併後、同年10月に橋上化された現在の亀田駅の供用が開始されました。また、平成8(1996)年に亀田総合体育館が建設され、平成24(2012)年に江南区文化会館、平成27(2015)年には武道場屋内多目的運動場が完成し、亀田総合運動公園(アスパーク亀田)は文化・スポーツの拠点として区民に親しまれています。



(2) 横越地区の歴史

横越地区の亀田砂丘には今から約5,000年前の縄文時代前期末から人々が住んでいた形跡があります。曾我墓所遺跡からは奈良時代を中心とした遺構・遺物等が出土し、この地が河川交通の要地であったことが推定されます。平安時代中頃の9世紀末には、自然堤防上に開拓集落が営まれました。中世には、この地が阿賀野川・小阿賀野川の水上交通の拠点の一つとなっていたことを示すように、京の醍醐寺の僧の旅の記録(永禄6年北国下り遣足帳)に「ヨココシ(横越)でコクラノワタリを舟で渡る」という記述があります。

江戸時代の横越地区は、新発田藩横越組(後に蒲原横越組)の大庄屋所在地として、横越島(亀田郷の旧称)と呼ばれた一帯の約110数か村を束ねていました。また、新発田藩の支藩として成立した^{そうみ}沢海藩の拠点となり、藩の陣屋が置かれた沢海は、城下町風の景観を今にとどめています。

明治8(1875)年、阿賀野川に架かる横雲橋の建設により、横越地区は益々交通の要衝として発展します。明治34(1901)年11月には横越・沢海・^{きつ}木津・二本木・小杉の5か村が合併し、横越村が誕生しました。同じ年、明治半ばより豊富な資金をもとに土地を購入してきた沢海の伊藤家は1,364町歩を保有する全国でも数少ない千町歩地主となりました。大正2(1913)年の木津切れなど幾多の水害を乗り越え、明治・大正期には中蒲原郡の養蚕の中心地の一つになりました。大正末期から昭和初期にかけて農業用水路等の整備により開田も進みました。

戦後、横越地区では高度経済成長と共に工業団地の造成や宅地開発が進み、人口が増加しました。平成7(1995)年に人口が1万人を突破し、平成8(1996)年には町制が施行されました。

横越・両川・亀田地区の伝統的特産品である梨は、二本木地内の広域選果施設^{ありみかん}「梨の実館」で選果が行われ、市内外に出荷されています。

平成17(2005)年の新潟市への合併後、新潟中央環状道路の横越バイパスが一部開通し、さらなる道路ネットワークの強化や安全かつ円滑な交通を確保するため、残り区間の整備を進めています。



(3) 曾野木地区の歴史

曾野木地区は、新発田藩の記録によれば江戸時代初頭に信濃川の自然堤防上に曾川、^{そがわ}嘉木^{かぎ}などの村が成立し、次いで内陸の低湿微高地に村々ができていったとされています。江戸時代、低湿地帯を中心に耕地の開発が進みました。幕末には、天野村付近で大きく蛇行し氾濫・決壊を繰り返していた信濃川を改修し、新たな河道を設けたことで、湛水の排除と新田開発が進められました。

明治22(1889)年、曾川村ほか10か村が合併して曾野木村が誕生しました。村名は曾川・^{あまの}天野・嘉木から一字ずつを採ったものです。明治34(1901)年には鍋湯新田が旧山潟村から編入されました。明治40年代から大正初期にかけて、次々に排水機が設置されましたが、大正6(1917)年に発生した曾川切れでは、堤防が約200mにわたって決壊し、たちまち亀田郷は泥の海と化しました。

戦後、土地改良事業などにより亀田郷は優良農地へと生まれ変わりました。昭和32(1957)年5月3日、曾野木村は新潟市に合併しました。昭和42(1967)年に市営住宅団地、民間開発のニュータウン造成が始まり、曾野木地区の人口、世帯数は飛躍的に増加しました。

平成17(2005)年に老朽化した鳥屋野浄水場の代替施設として信濃川浄水場が完成し、曾野木・両川地区などに水道水を供給しています。昭和39(1964)年の新潟地震で損傷した栗ノ木排水機場にかわって、昭和43(1968)年に親松排水機場が完成し、その後の大雨に対応するため、平成15(2003)年に鳥屋野潟排水機場が完成しました。その後、親松排水機場が老朽化し、排水機能の維持が困難となったため、平成20(2008)年には国営亀田郷農業水利事業で新親松排水機場が完成し、農地や住民の財産を洪水から守るため大切な役割を果たしています。

令和4(2022)年には、市営住宅跡地に曾野木コミュニティセンターが開設されました。また、信濃川の最下流である本市の洪水被害に備え、水防活動や災害復旧活動を円滑に実施するための拠点である天野河川防災ステーションが令和5(2023)年に完成する予定です。



(4)大江山地区の歴史

大江山地区は、亀田郷の中で歴史が古い地域の一つです。特に蔵岡・笹山から駒込・袋津へと連なる通称山通と呼ばれる砂丘には、縄文時代前期初頭(約6,000年前)の笹山前遺跡など遺跡が多く点在しています。また、松山・直り山から茗荷谷、丸山へと続く砂丘や、大淵など阿賀野川の自然堤防上にも奈良・平安時代の遺跡が多く見られ、この地域に古くから人々が生活してきたことを示しています。慶長期の新発田藩の記録には、大淵、蔵岡、細山などの村々の名が見られます。江戸時代から伝わる「直り山神楽」は一度途絶えましたが、地域の人々の協力で昭和54(1979)年に復活し、諏訪神社祭に奉納されています。明治22(1889)年、山岡村、山通村、大淵村、江口村の4か村が成立し、明治34(1901)年、4か村が合併して大江山村となりました。村名は4か村名から一字ずつ採って組み合わせたものです。

昭和32(1957)年5月3日、大江山村は新潟市と合併しました。昭和44(1969)年には食品工業団地が完成し、地元からも多数雇用されています。昭和53(1978)年から大江山農村総合モデル事業の実施により、集落道、排水処理施設や集会施設などの整備が行なわれ、生活環境の改善が進みました。平成19(2007)年、総合的な食品の流通拠点となる新潟市中央卸売市場が完成し、物流の効率化と食品の安心・安定供給、新潟の食と花を全国に売り込む拠点となっています。



(5) 両川地区の歴史

両川地区は、新発田藩の記録によれば、慶長年間(1596～1615年)に舞瀧^{まいがた}村を始め酒屋村、上和田村などの村々が相次いで開発されました。地区には新潟市の伝承芸能として知られる「太々神楽^{だいだい}」が伝わっています。明治34(1901)年11月1日、和舞村^{わまい}・割野村^{わり}・嘉瀬村^{かせ}・酒屋村が合併して両川村となりました。両川の地名は二つの川(信濃川・小阿賀野川)に由来して名付けられました。河川交通の全盛期には、北前船の寄港する新潟湊から会津や長岡方面へ物資を流通させる船着場として繁栄しました。また、在郷町として商工業が発達し、旅館や料理店などが建ち並びました。

戦後は、耕地整理事業が実施され、さらに機械農業等の営農形態の変化に対応するため、昭和41(1966)年に当時としては画期的な1区画40アールの大型ほ場化を構造改善事業として実施しました。昭和47(1972)年5月22日に、昭和天皇の天覧に供されました。

昭和32(1957)年5月3日、両川村は新潟市と合併しました。両川地区の平賀には信濃川漁業協同組合があり、信濃川下流域の漁業を統括し、流域では鮭や鯉、モクズガニなどが漁獲されるほか、鮭の養殖にも取り組んでいます。平成5(1993)年に完成した両川工業団地には、多くの企業が進出しているほか、隣接地に新たな工業団地の整備が進められています。秋葉区や三条市方面と結ぶ亀鶴橋は、老朽化に伴い平成17(2005)年、三代目の橋が完成しました。



3 自然

江南区は、信濃川と阿賀野川そして両河川を連絡する小阿賀野川に囲まれ、豊かな自然環境のもと、さまざまな植物や鳥などが生息しています。

新潟砂丘の最も内陸側の砂丘列は、亀田地区周辺にあり、砂丘の窪地に染み出してできた砂丘湖は、かつて点在していましたが、現在は北山池のみが残っています。公園として整備された北山池では、ヘラブナ釣りや珍しい緑色の花を咲かせる桜「御衣黄」を見ることができます。

冬にはたくさんのハクチョウが飛来し、河川などで羽を休め、田園で餌を採る姿を身近に見ることができます。また、鮭漁も盛んに行なわれ、秋から冬の風物詩となっています。

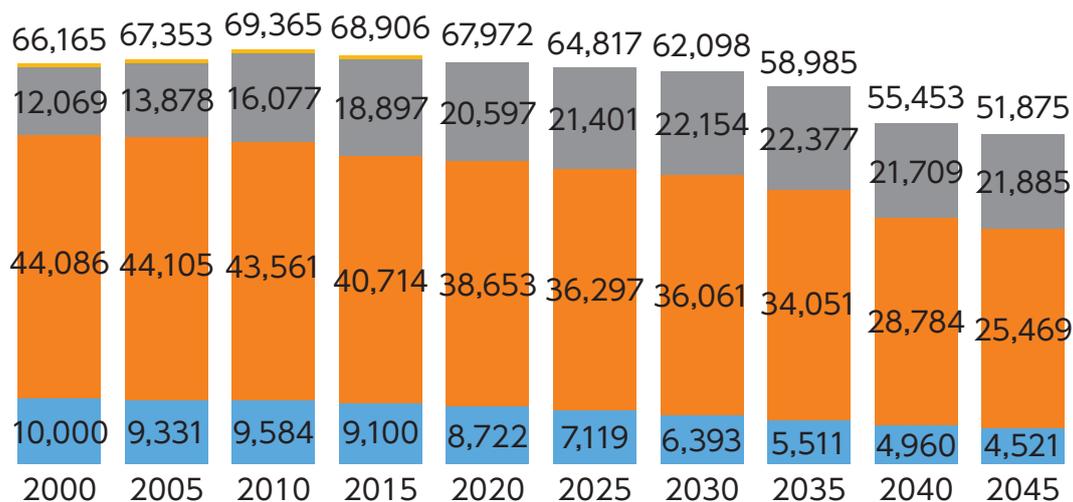
4 人口

江南区の人口は、2010年をピークに減少に転じ、2020年には67,972人となりました。今後、さらに人口減少が進み、2045年には2020年と比べて約24%減少する見込みです。

15歳未満(年少人口)、15～64歳(生産年齢人口)は減少しますが、65歳以上(老年人口)は増加し続けることが想定されます。

江南区の将来人口推計

■ 15歳未満 ■ 15～64歳 ■ 65歳以上 ■ 不詳 (人)



出典: 国勢調査、新潟市独自推計

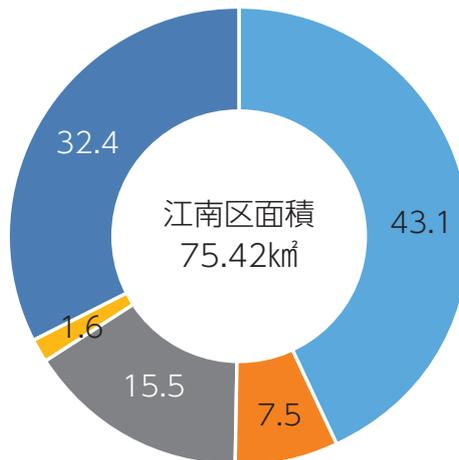
推計

5 土地利用状況

区域の約半分を田や畑の農地が占め、宅地としての利用は、約15%となっています。

江南区の土地利用割合

■ 田 ■ 畑 ■ 宅地 ■ 雑種地ほか ■ その他(道路、公共施設、水面など) (%)



出典:資産税課調べ(R4)を基に江南区作成

6 産業

高速道路のインターチェンジ周辺や主要幹線道路沿線には、大型商業施設があるほか、食品製造業をはじめとした多数の企業が立地する工業団地が整備されています。

広大な農地では、稲作のほか、なす、梅、梨、いちご、とうもろこしなど多様な農産物を供給する都市近郊型農業が営まれています。

新潟市中央卸売市場やその関連施設は、鮮魚、野菜、果樹、花きなどの生産と消費を結ぶ流通拠点として重要な役割を担っています。

7 交通

高速道路は、磐越自動車道、日本海東北自動車道が通り、新潟駅などの主要な交通結節点へは幹線道路で結ばれています。

公共交通は JR 信越本線で市内中心部へ移動できるほか、亀田駅を中心として路線バス、区バス、住民バスが各方面に運行されています。

整備中である新潟中央環状道路と JR 信越本線との交点に、(仮称)江南駅を設置する検討が土地区画整理事業とあわせて進められています。

区の将来像

緑と調和した、賑わいと安らぎのあるまち

目指す区のすがた

I

自然環境と都市機能を活かした
快適に暮らせるまち

II

人と人とのつながりを大切にする
安心安全なまち

III

産業と地域の魅力が輝くまち

IV

人が輝き文化が育まれ健やかに過
ごせるまち

V

区民が主役となる協働のまち

政策

施策

1 快適で安心・安全に
移動できる環境の確保

- (1) 道路網の充実
- (2) 公共交通のさらなる利便性の向上

2 市街地と田園・自然の魅力
を活かした都市環境づくり

- (1) 計画的・効率的な土地利用
- (2) 憩いの空間づくり
- (3) 資源循環型社会の推進

1 安心して安全に暮らせる
まちづくり

- (1) 防災力の向上
- (2) 防犯・交通安全の活動強化

2 健やかに安心して暮らせる
まちづくり

- (1) ずっと安心して暮らせる地域づくり
- (2) 子どもを安心して生み育てられるまちづくり

1 活力ある農業と産業の創出

- (1) 持続可能な産業の形成
- (2) 地域商業の活性化
- (3) 雇用機会の拡大

1 地域とともに創る
子どもたちの未来

- (1) 生涯にわたる学習機会の提供
- (2) 教育の推進

2 文化が花開きスポーツが
盛んなまちづくり

- (1) 歴史・伝統、文化の継承
- (2) スポーツの振興

1 区民とともに歩む
協働のまち

- (1) 区自治協議会との協働
- (2) コミュニティ活動への支援

2 親しまれ信頼される
区役所

- (1) 持続的で質の高い区民サービスの提供
- (2) 広報・広聴の充実

I 自然環境と都市機能を活かした快適に暮らせるまち

1 快適で安心・安全に移動できる環境の確保



(1) 道路網の充実

【現状、特性と課題】

- 道路などのインフラ資産は、高度経済成長期に整備されたものが多く、老朽化に伴い今後、維持整備・更新費用の増大が見込まれています。また、近年、激甚化・頻発化する豪雨や大雪などの災害リスクが増大しています。
- 人・モノ・情報の移動と交流を確保するため、さらなる道路ネットワークの構築・機能強化が求められています。
- 子どもや高齢者、障がい者など多様な区民が通勤や通学、買い物などへ安心・安全に移動できることが求められています。

【取組の方向性】

- 道路などの定期的な点検や老朽化対策や長寿命化を実施するなど、適切な維持管理を行い、安心安全なインフラを確保します。
- 迅速かつ安全な移動確保、平時だけでなく災害時も機能する環状道路の整備や幹線道路の整備を図ります。
- 通学路の危険箇所の解消など安心・安全に通行できる歩道等の歩行者空間整備に取り組みます。

【取組の例】

- ・道路などの効率的な維持管理の推進
- ・新潟中央環状道路など主要幹線道路の整備
- ・歩道や路側のカラー化などの歩行者空間の整備



新潟中央環状道路 横越バイパス



歩道の整備

(2) 公共交通のさらなる利便性の向上

【現状、特性と課題】

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う移動自粛などにより、需要に応じたバスの減便が実施されたほか、区バス・住民バスの利用者数が減少しています。
- 住民バスや福祉車両を用いた助け合いによる移送の運行により、地域が主体となり実情に応じた交通手段を確保する取組が進められていますが、公共交通空白地域や不便地域が存在しています。
- 亀田駅と荻川駅間の二本木地区に（仮称）江南駅の設置に向けた検討が土地区画整理事業とあわせて進められています。

【取組の方向性】

- 区バス、住民バスの利用促進に向けて、ニーズに即した運行内容の改善など利便性向上を図ることで、新たな利用者を発掘するなど持続可能な地域の足を確保します。
- 住民バス運行団体や運行事業者などの関係機関との連携を図り、区民への情報提供を進めることで、地域全体で暮らしの足を支える意識の醸成を図ります。
- （仮称）江南駅の設置の進捗状況に応じ、交通結節機能について検討を進めます。

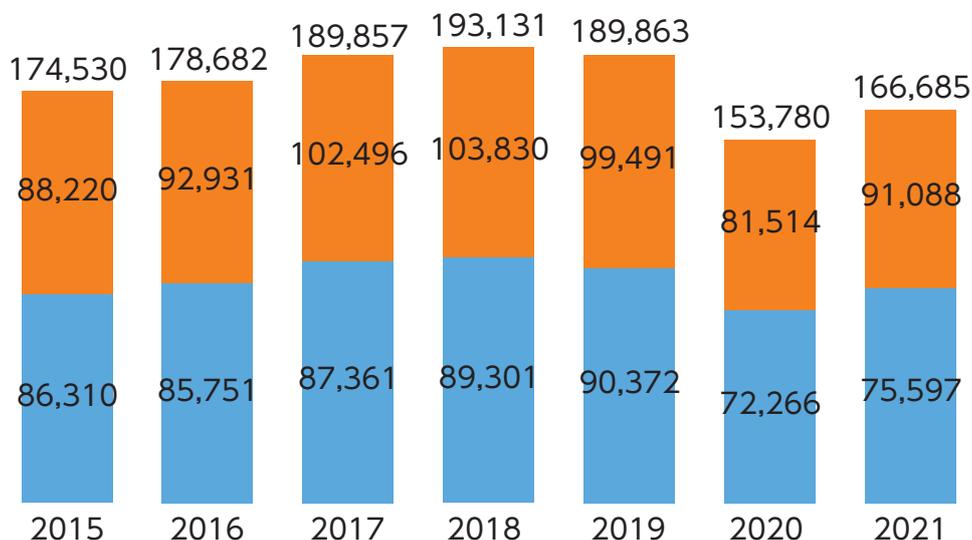
【取組の例】

- ・区バスの運行、住民バスへの補助
- ・公共交通利用促進に向けた意識啓発
- ・（仮称）江南駅の設置に向けた検討とあわせ、パークアンドライドやバス乗り入れを検討

バス利用者数推移

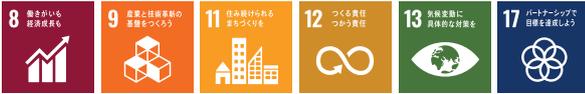
■ 区バス ■ 住民バス

(人)



出典：新潟市ホームページ(区バス・住民バス実績)より作成

2 市街地と田園・自然の魅力を活かした都市環境づくり



(1) 計画的・効率的な土地利用

【現状、特性と課題】

- 江南区を構成する亀田、横越、曾野木、大江山、両川の5地区の日常生活圏は、恵まれた自然環境を保全・活用しながら、区全体でコンパクト・プラス・ネットワークを考慮した適切な立地誘導を進めています。
- 農村集落（既存集落区域）の維持・活性化を図るため、「新潟市開発行為等の許可の基準に関する条例」により緩和された建築要件を活用した開発許可件数が8区中1位となっています。引き続き定住人口を確保することで、集落の維持活性化が必要です。
- 空き家などの課題を踏まえた既成市街地の都市機能の維持・充実が必要です。

【取組の方向性】

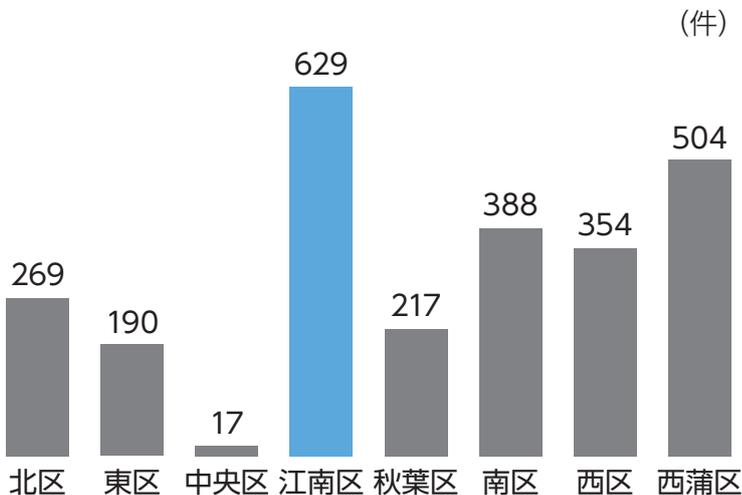
- 新潟市中央卸売市場・工業団地といった各種拠点施設などの重要な社会資本を有効活用し、市全体や区の持続的な発展に寄与するまちづくりに取り組みます。
- 農村集落では、既存集落区域内の住宅建築の促進など、田園集落づくり制度の活用により、定住人口の確保や活性化を進めます。

【取組の例】

- ・区内各地区における適正なまちづくりに向けた誘導・支援
- ・農村集落の活性化へ向けた制度活用

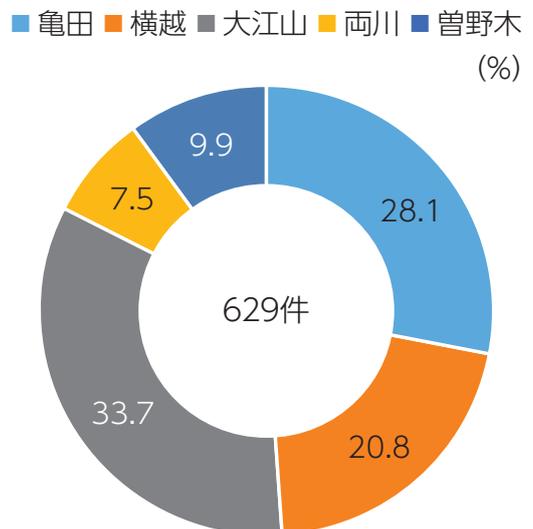
新潟市開発行為等の許可の基準に関する条例 許可実績

■ 区別



出典:都市計画課調べ(H26.1～R4.3)

■ 区内地区別



出典:建設課調べ(H26.1～R4.3)

(2) 憩いの空間づくり

【現状、特性と課題】

- 阿賀野川フラワーライン、小阿賀野川河川公園、北山池公園などの水と緑のネットワークが形成されています。
- 亀田公園や横越公園といった区外からも人気の公園が立地しています。子どもたちが安心して安全に遊べるように、遊具の安全確保や環境の保持に努めるとともに街路樹などを適切に保全する必要があります。

【取組の方向性】

- 公園や水辺空間といった緑の保全や誰もが居心地よく快適に過ごせる空間づくりを行い、区民が自然や水辺を体験できる機会の創出を図ります。
- 多様な機能を有する公園や水辺空間の有効活用を図り、区民ニーズを踏まえ、これらを活かしたまちづくりを進めます。

【取組の例】

- ・公園施設や街路樹等の維持管理の推進



亀田公園遊具



水辺空間を活用したイベント

(3) 資源循環型社会の推進

【現状、特性と課題】

- 燃やすごみに資源化可能な品目（プラマーク容器包装、枝葉・草など）が排出されること
があるため、さらなる分別の推進が必要です。
- 美しいまちづくりを推進するため、地域一斉清掃や自主的な美化活動の継続的な支援が
必要です。

【取組の方向性】

- 家庭系ごみを減らし資源循環を推進するために、区のごみ排出状況にあわせて、きめ細
かなごみ分別方法の情報提供に取り組めます。
- 地域一斉清掃を継続するとともに、区民自らが地域の環境美化に取り組む機運の醸成を
図るため、地域のボランティア清掃を引き続き支援します。

【取組の例】

- ・資源化可能なプラマーク容器包装と枝葉・草の分別方法を表示した看板の配付
- ・横越地区・亀田地区一斉清掃、ボランティア清掃活動の支援



分別方法を表示した看板



ボランティア清掃活動

Ⅱ 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち

1 安心して安全に暮らせるまちづくり



(1) 防災力の向上

【現状、特性と課題】

- 災害時には、「自助・共助」が特に重要であり、日頃から地域で助け合う体制の確立が求められますが、自主防災組織や避難所運営委員会の組織率は低い状況です。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動が停滞している組織の再開を支援する必要があります。
- 江南区は、周囲を河川に囲まれ、豊かな自然環境に恵まれている一方、浸水被害や河川の氾濫が懸念されます。全国で洪水や地震など、自然災害が頻発化、激甚化してきており、災害発生時に区民一人一人が適切な行動をとれるよう、命を守る行動の啓発をしていく必要があります。

【取組の方向性】

- 地域防災リーダーの育成や関係団体と連携し、自主防災組織等の活動を充実させ、地域の防災力を高めます。
- 災害時に円滑な避難所運営を行うため、平時からの避難所運営委員会の立ち上げを推進し、避難所運営訓練の実施など地域の特性に応じた避難所運営への支援を行います。
- 災害発生時に適切な行動がとれるよう、日頃から災害への備えに関する情報を発信します。

【取組の例】

- ・ 自主防災組織等における防災訓練への支援
- ・ 避難所運営委員会立ち上げの推進、避難所運営体制の構築に向けた支援
- ・ 地域防災リーダーの育成
- ・ 防災情報の収集方法や避難行動（マイ・タイムライン等）の普及啓発



避難所運営委員会による避難所運営訓練



マイ・タイムライン

(2) 防犯・交通安全の活動強化

【現状、特性と課題】

- 犯罪の発生状況は減少傾向にある一方、子どもへの声掛け事案といった不審者情報や高齢者を対象とした特殊詐欺被害が発生しています。
- 交通事故は減少傾向にある一方、高齢者が関わる交通事故割合が高くなっています。

【取組の方向性】

- 防犯意識の向上や防犯力の高い地域社会の構築に向け、啓発活動や防犯パトロールなどを関係機関や団体と連携し、推進します。
- 関係機関や団体と連携し、効果的な交通安全運動を推進するとともに広報啓発に努めます。

【取組の例】

- ・特殊詐欺被害防止対策の推進
- ・高齢者に対する交通安全対策の推進



特殊詐欺撲滅イベント



高齢者安全運転サポート事業

2 健やかに安心して暮らせるまちづくり



(1) ずっと安心して暮らせる地域づくり

【現状、特性と課題】

- 高齢者が増加しているなか、2025年には団塊の世代が後期高齢者となることで、認知症高齢者の増加や介護需要が高まります。
- 分野ごとの支援だけでは十分に対応できない制度の狭間の問題が生じています。
- 家族だけでなく地域や社会で人と人がつながり、住み慣れた地域で誰もが自分らしく充実した生活を安心して送れるような地域づくりが求められています。

【取組の方向性】

- 障がいのある人が地域で活躍できる環境づくりのため、障がいのある人への理解を深め、障がいのある人ない人が交流できる環境やネットワークづくりを進めます。
- 地域で支え合い、助け合える関係づくり、気軽な交流の場や交流の機会づくりなどの支援活動を充実させます。
- 地域住民の複雑化・複合化する支援ニーズに対応するため、様々な機関が協働し包括的に支援する重層的支援体制を構築します。
- 健康寿命の延伸を図るため、介護予防や健康づくりを進めます。

【取組の例】

- ・江南区ふれあい・ささえあいプランの推進
- ・地域包括ケアシステムの推進
- ・地域共生社会のまちづくり
- ・生活習慣病予防や介護予防、健康づくりの推進



健康づくり講座



江南区はるみどり協議会による授産品等の販売

(2) 子どもを安心して生み育てられるまちづくり

【現状、特性と課題】

- 少子化、核家族化、地域のつながりの希薄化などにより、多世代での交流、子育て世代と地域との交流機会が減少しています。また、子育ての孤立化や負担感が増しています。
- 共働き世帯の増加による保育ニーズの高まりに対応するため、保育園や認定こども園の整備が進められていますが、望むすべての人が安心して子どもを産み、育てられるよう妊娠・出産・子育ての相談体制の充実をさらに図っていく必要があります。

【取組の方向性】

- 世代を超えた交流や相談体制の充実、子育てしやすい環境づくりを進め、地域全体で子どもたちが育つ力を育みます。
- 子育て支援センターや保育園、認定こども園や児童館、江南区福祉センター内の「子どもたちの居場所 (FES)」など成長に応じた居場所を活かし、子どもたちがすこやかに育つ環境づくりを進めます。

【取組の例】

- ・江南区ふれあい・ささえあいプランの推進
- ・保育園、地域子育て支援センター、児童館の充実
- ・妊娠・子育てに関する相談・支援体制の充実



FESハロウィンパーティー



こうなんふれ愛まつり・多世代交流ひろば

Ⅲ 産業と地域の魅力が輝くまち

1 活力ある農業と産業の創出



(1) 持続可能な産業の形成

【現状、特性と課題】

- 主食用米の需要減少や米価の低迷、高齢化や担い手不足により後継者が減少するなか、水稻をはじめとした多彩な農産物を供給する都市近郊農業が営まれています。
- 歴史や風土を踏まえ、これまで培われてきた亀田縞などの伝統産業が受け継がれています。
- インターネットショッピングの利用増加や、若い世代を中心に社会課題の意識の高まりを受けたサステナブルな消費意識が醸成されるなど、消費者の購買行動や意識が変化、多様化しています。

【取組の方向性】

- 引き続き農地の集積・集約を行うとともに、意欲ある多様な担い手の確保・育成、スマート農業導入による効率化、売れる米づくりの推進、6次産業化の推進による高付加価値化、園芸導入による複合経営の推進など、儲かる農業の実現に向け、生産者を支援します。
- 歴史ある亀田縞などの伝統産業の振興を図ります。
- 地産地消のさらなる拡大に向けて生産者と消費者をつなぎ、亀田縞や地元農産物などを身近に感じられる取組を進めます。

【取組の例】

- ・農地中間管理事業の活用
- ・新規就農者・農業生産法人等の確保・育成
- ・亀田縞の利用促進
- ・担い手の支援に関する各種事業の推進
- ・地元農産物や農産加工品のPR



藤五郎梅



亀田縞タペストリー

(2) 地域商業の活性化

【現状、特性と課題】

- 市内随一の店舗面積を誇る大型商業施設が立地しているほか、亀田駅から国道49号鷺ノ子インターチェンジに向かう通称亀田大通り沿いに大規模小売店舗が多数出店しています。また、亀田本町地区周辺には商店街があるほか、各地区に地域の暮らしに根差した商店や個性ある商店が立地しています。
- 北方文化博物館、亀田三・九の市、農産物直売所、観光農園や地域の歴史や文化などの多様な観光資源が存在します。

【取組の方向性】

- 大規模店と共存共栄を図りながら、地域コミュニティの一端を担う商店街などの地域商業の振興を図ります。
- 地域に根差した歴史、文化、まちなみ、郷土芸能などの地域の宝を活用することで、交流人口の拡大と地域商業の活性化を目指します。

【取組の例】

- ・商店街等の活性化に向けた支援（補助制度など）
- ・商工団体や商店会、業界団体などとの連携の促進
- ・地域の魅力の効果的発信と、交流人口の拡大に資するイベント開催



亀田三・九の市

(3) 雇用機会の拡大

【現状、特性と課題】

- 亀田工業団地、木津工業団地、両川工業団地、あけぼの印刷団地、食品工業団地などがあり、多数の企業が立地しています。
- テレワーク利用の増加、二地域居住、副業といった働き方の変化や多様化が進展し、場所にとらわれない新たなライフスタイルも生まれてきています。

【取組の方向性】

- さらなる企業誘致や農商工・農福連携による新たなビジネスの創出を目指します。
- 若者のUターン就職に向けた取組を進めます。

【取組の例】

- ・ 経済団体との連携によるさらなる制度利用の拡大
- ・ 立地企業の競争力強化に向けた取組への支援
- ・ 空き店舗対策、利活用の検討
- ・ 農商工・農福連携に向けた体制づくり
- ・ シビックプライドの醸成
- ・ 学生等に向けた区の魅力発信



亀田工業団地

Ⅳ 人が輝き文化が育まれ健やかに過ごせるまち

1 地域とともに創る子どもたちの未来



(1) 生涯にわたる学習機会の提供

【現状、特性と課題】

- 長寿社会の到来により、生きがいづくりや人生100年時代に対応した生涯学習や社会教育が求められています。
- 生涯学習や社会教育が地域の課題解決や人材育成につながっていくことが期待されています。

【取組の方向性】

- 公民館や図書館などにおいて、現代的・社会的課題やライフステージなど、一人一人の多様なニーズに応じた学習機会の充実を図ります。
- 地域固有の文化や課題に関する学習機会を提供することにより、地域における絆づくりや持続可能な活力あふれる地域コミュニティの形成を支援します。

【取組の例】

- ・家庭における教育力向上への支援
- ・青少年の現代社会を生き抜く力獲得への支援
- ・高齢者の学習活動や社会参加促進への支援
- ・人づくり、地域づくりによる地域コミュニティ活動活性化への支援
- ・現代的・社会的課題解決への支援



あつまれ♪そのキッズ「切り絵でうちわをつくろう！」



わくわくキッズスクール「つくって飛ばそう！ミニパラシュート」

(2) 教育の推進

【現状、特性と課題】

- 将来を担う子どもたちの健やかな成長に向けて、保護者、学校、地域が一体となり、子どもの成長を支えるコミュニティ・スクールが全校で導入され、「地域とともにある学校」づくりを進めています。
- 地域教育コーディネーターが各校に配置され、幅広い地域住民の参画を得て、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動を実施しています。

【取組の方向性】

- 地域の声を積極的に活かし、学校と地域住民等が、共通の目標・ビジョンを持ち、力を合わせて学校運営に取り組むことで、特色ある学校づくりを進めていきます。
- 地域コミュニティ協議会等と連携し、世代間交流や地域の絆づくりなどを協働で行うことによって、地域課題の解決を支援し、子どもたちの地域への誇りと愛着の醸成を図っていきます。

【取組の例】

- ・コミュニティ・スクールの推進
- ・地域と学校パートナーシップ事業の推進

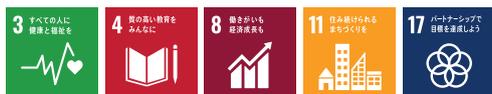


岩万燈押し合い、亀田木遣り体験学習(亀田小学校)



農業体験学習(大江山中学校)

2 文化が花開きスポーツが盛んなまちづくり



(1) 歴史・伝統、文化の継承

【現状、特性と課題】

- 江南区の文化芸術の発信拠点である江南区文化会館や江南区郷土資料館、県内最大級の豪農の館「北方文化博物館」などが立地しています。区民の活動の拠点としての利用のほか、芸術や文化、伝統に触れる機会が提供されています。
- 各地域に祭り、神楽、木遣りといった世代を超えて受け継がれてきた伝統や文化が根付いています。

【取組の方向性】

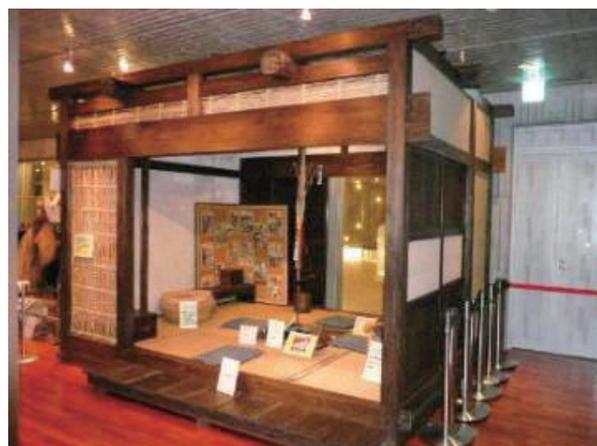
- 子どもをはじめ、区民の文化芸術に親しむ機会を創出します。
- 先人から受け継ぐ祭り、神楽、木遣りといった伝統や文化を次世代に引き継がれるよう支援します。

【取組の例】

- ・自主事業の実施による魅力あるコンテンツの提供
- ・郷土の歴史講座の開催
- ・総合学習授業への講師派遣、交通手段の提供



江南区文化会館



江南区郷土資料館

(2) スポーツの振興

【現状、特性と課題】

- 人生100年時代を見据え、運動・スポーツを通じ、健康寿命を平均寿命に近づけ、いきいきとした生活が実現できることが求められています。
- 亀田総合体育館や横越総合体育館といった体育施設が立地しているほか、スポーツ少年団などの活動、子どもから高齢者まで気軽に楽しめるフロアカーリングの普及、振興など、スポーツに親しむ環境づくりが進められています。

【取組の方向性】

- スポーツを通じた健康増進、健康寿命の延伸を目指すとともに、スポーツに親しむことができる環境を整備します。
- 子どものスポーツ機会の充実や、区民がライフステージに応じたスポーツ活動が行えるよう、関係者や関係機関とともに環境づくりを進めます。

【取組の例】

- ・江南区スポーツ施設の適切な維持管理
- ・スポーツに誰もが気軽に参加できる機会の提供
- ・地区スポーツ振興会への支援



亀田総合体育館



横越総合体育館

V 区民が主役となる協働のまち

1 区民とともに歩む協働のまち



(1) 区自治協議会との協働

【現状、特性と課題】

- 多様な意見の調整や区役所が実施する事業へ意見を伝えることで、区民のニーズを反映させているほか、区自治協議会が事業を実施し、地域課題の解決に自ら取り組んでいます。
- 多様化、高度化する地域課題に対して、自治会や地域コミュニティ協議会だけでなく、多様な地域主体と連携し、互いの強みを活かし、課題を解決していくことがこれまで以上に求められています。

【取組の方向性】

- 区と地域課題を共有し、適切な役割分担のもと、より連携して事業を実施することで活動の充実を図ります。
- 地域課題解決を図るため、区自治協議会が実施主体としての役割を担うとともに、多様で自主的な活動を展開しているコミュニティ組織やNPOなどの諸団体と協働していくコーディネート機能の強化を支援します。

【取組の例】

- ・区自治協議会の運営（会議運営・提案事業・広報紙発行・区政評価）
- ・特色ある区づくり事業
- ・多様な主体との連携の推進



区自治協議会でのワークショップ



スポGOMI大会の開催

(2) コミュニティ活動への支援

【現状、特性と課題】

- 自治会の加入率は、他政令指定都市より高いものの、自治会・町内会や地域コミュニティ協議会の担い手不足が生じているほか、新型コロナウイルス感染症の影響により活動に制約が生じています。
- 単身世帯の増加や働き方の多様化などによりライフスタイルが多様化し、住民とコミュニティの関わり方に変化が生じています。

【取組の方向性】

- 地域コミュニティを維持、形成していくため、住民同士のつながりづくりや多様な地域特性に即した地域課題の解決を支援していきます。
- 持続可能なコミュニティの運営支援や NPO などの多様な主体とのネットワーク形成や適切な役割分担を進めます。

【取組の例】

- ・地域コミュニティ協議会への支援と助成
- ・自治会などへの支援と助成
- ・自治会・町内会長制度説明会の開催
- ・地域コミュニティ協議会連絡会議の開催



認知症の人への声かけ見守り模擬訓練
(亀田西小学校区コミュニティ協議会)

2 親しまれ信頼される区役所



(1) 持続的で質の高い区民サービスの提供

【現状、特性と課題】

- 令和4年度市政世論調査では、「区として良くなっているもの」として、「市・区の窓口対応」の割合が最も高く、2割を超えています。
- 職員研修や窓口改善運動など、職員の資質向上や区民が利用しやすい区役所づくりに努めています。
- 高度経済成長期に整備した公共施設の老朽化が進み、維持管理費用が増大することが想定されます。

【取組の方向性】

- 複雑化、多様化する区民ニーズや課題に対して、関係所属が連携し、質の高い行政サービスを提供していきます。
- 創意工夫する職場環境づくり、働き方の見直しなど職員一人一人が能力を発揮できる職場づくりを進めます。
- 公共施設の長寿命化を図るとともに、地域住民との対話を通じ地域に密着した施設の効率的な利活用を進めます。

【取組の例】

- ・職員研修の実施
- ・区役所窓口改善活動の推進
- ・事業の合理化、改善の推進
- ・案内表示等の改善
- ・公共施設の適切な管理と効率的な利活用の推進

区として良くなっているもの

項目	令和4年度	令和3年度	令和2年度
市・区の窓口対応	1位 (26.6%)	1位 (24.6%)	1位 (20.3%)
ごみ処理・リサイクル	2位 (17.3%)	2位 (15.8%)	2位 (16.7%)
公園の整備	3位 (11.6%)	3位 (13.5%)	3位 (9.9%)

出典：市政世論調査

(2) 広報・広聴の充実

【現状、特性と課題】

- 区役所だより「こうなん」の発行、フェイスブックを活用した広報のほか、江南区親善大使を活用した情報発信など江南区の魅力を発信しています。
- 区長への手紙、区長懇談会を実施し、区民ニーズの把握に努め、課題解決につなげています。

【取組の方向性】

- 情報を必要としている区民へ届くよう、様々な媒体などを活用し、効果的な広報を実施するほか、江南区に住みたい、住み続けたいと思えるよう、発信力を強化します。
- 区民の声に耳を傾け、地域の実情や課題の把握、共有を図るとともに、区政運営に活かしていきます。

【取組の例】

- ・区役所だよりの発行
- ・区ホームページ等による情報発信
- ・区長への手紙
- ・区長懇談会の開催



江南区親善大使

1

用語集

	用語	解説
あ行	NPO	Non Profit Organizationの略。非営利組織。政府・自治体や私企業とは独立した存在として、市民が主体となって社会的な公益活動を行う組織・団体。
か行	共生社会	誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会のこと。
	協働	市民と行政が、対等な関係で相互の立場や特性を理解し、目的を共有し、連携・協力すること。
	区自治協議会	市民自治の推進を図るために、区民等と市をつなぐ「協働の要」として平成19(2007)年度に各区に設置された市長の附属機関のこと。
	区バス	区制導入に伴い区役所への移動など新たに生じる移動ニーズや区のまちづくりに対応することを目的に、区が運行計画を立案し、交通事業者に委託して運行する乗合バスのこと。
	健康寿命	健康上の問題で、日常生活が制限されることなく生活できる期間。
	交通結節点	バスのほか、電車やタクシー、自動車、自転車など様々な交通手段の接続が行われる乗り換え拠点のこと。
	交流人口	観光目的やビジネス目的などでその地域を訪れる人々のこと。
	コミュニティ・スクール	学校運営協議会を設置した学校のこと。学校運営協議会を通して保護者や地域住民等が一定の責任と権限のもと学校運営に参画し、一体となってよりよい教育の実現に向けて連携、協働するもの。

用語	解説
子どもたちの居場所 (FES)	<p>子どもたちが放課後の時間帯や休日や祝日に楽しく気軽に立ち寄れる居場所。勉強や読書のほか、音楽活動や卓球にダンス、イベントの企画運営もできる、みんなで楽しく過ごせる交流の場のこと。</p> <p>愛称の「FES(フェス)」は、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんな仲良く (Friendly) ・たのしめる (Enjoy) ・場所 (Space) <p>という意味が込められている。</p>
さ行 シビックプライド	<p>市民が都市や自治体に対して持つ誇り、愛着および共感のこと。</p>
自主防災組織	<p>地域住民が「自分たちのまちは自分たちで守る」という共助の精神に基づき、地域の防災活動のために自主的に結成された組織のこと。</p>
住民バス	<p>バス路線の廃止問題を抱える地区や公共交通不便地域において、地元住民組織が主体となって運営する乗合バスのこと。</p>
スマート農業	<p>ロボット、AI、IoTなど先端技術を活用する農業のこと。</p>
た行 地域教育コーディネーター	<p>学校に拠点を構え、学校・PTA・地域のニーズを把握し、地域と学校が協働できることを企画、実施するつなぎ役のこと。</p>
地域コミュニティ協議会	<p>市民と市が協働して、地域のまちづくりやその他の諸課題に取り組み市民自治の推進を図るため、おおむね小学校区を基本単位として、自治会・町内会を中心に様々な団体等で構成された組織のこと。</p>
地域と学校パートナーシップ事業	<p>地域教育コーディネーターを学校に配置し、学校と社会教育施設や地域活動を結ぶネットワークを形成する事業のこと。</p>

	用語	解説
	地域包括ケアシステム	「介護」「医療」という専門的なサービスと健康寿命延伸を目指す「介護予防」、その前提としての「住まい」と「生活支援」が一体的に提供されることで、高齢者が要介護状態になっても、可能な限り住み慣れた地域で在宅の生活ができるようにする地域の包括的な支援・サービス提供体制のこと。
	長寿命化	適切な保全により公共施設やインフラ資産の健全な状態を可能な限り長く維持すること。
な行	農商工連携	地域の基幹産業である農林水産業、商業、工業等の産業間での連携を行う取組のこと。
	農福連携	障がい者などが農業分野で活躍することを通じ、自信や生きがいを持って社会参画を実現していく取組のこと。
は行	フレイル	加齢に伴う予備能力低下のため、ストレスに対する回復力が低下した状態のこと。要介護状態に至る前段階として位置付けられる。
や行	Uターン	地方からどこか別の地域へ移住したあと、その後また元の地方へ戻ること。
ら行	6次産業化	農林漁業者(1次産業従事者)が原材料供給者としてだけでなく、「地域資源」(農林水産物、バイオマス、自然エネルギーなど)を有効活用し、加工(2次産業)、流通(3次産業)に取り組み経営の多角化を進め、農山漁村の雇用確保や所得の向上を目指すこと。

2

SDGs関連表

	1 貧困	2 飢餓	3 保健	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生	7 エネルギー	8 経済成長と雇用	9 インフラ、産業化、イノベーション	10 不平等	11 持続可能な都市	12 持続可能な生産と消費	13 気候変動	14 海洋資源	15 陸上資源	16 平和	17 実施手段
																	

I 自然環境と都市機能を活かした快適に暮らせるまち

1 快適で安心・安全に移動できる環境の確保									●		●		●					●
2 市街地と田園・自然の魅力を活かした都市環境づくり								●	●		●	●	●					●

II 人と人とのつながりを大切にする安心安全なまち

1 安心して安全に暮らせるまちづくり	●		●								●		●				●	●
2 健やかに安心して暮らせるまちづくり	●	●	●	●				●		●	●						●	●

III 産業と地域の魅力が輝くまち

1 活力ある農業と産業の創出	●	●					●	●	●	●		●		●	●	●	●	●
----------------	---	---	--	--	--	--	---	---	---	---	--	---	--	---	---	---	---	---

IV 人が輝き文化が育まれ健やかに過ごせるまち

1 地域とともに創る子どもたちの未来		●	●	●	●			●		●	●		●				●	●
2 文化が花開きスポーツが盛んなまちづくり			●	●				●			●							●

V 区民が主役となる協働のまち

1 区民とともに歩む協働のまち											●						●	●
2 親しまれ信頼される区役所					●			●		●	●						●	●

令和5年3月 発行

新潟市江南区役所 地域総務課

〒950-0195 新潟市江南区泉町3-4-5

TEL : 025-382-4619 FAX : 025-381-7090

E-mail: chiikisomu.k@city.niigata.lg.jp



緑と調和した
賑わいとやすらぎのあるまち
江南区

